

浦賀道

浦賀道は現在の環状 4 号線の大道小学校あたりから分かれて浦賀方面へ行く古道であり、今もある程度たどることができます。鎌倉時代に栄えた六浦の海岸線を歩くと、その歴史を示す地名が残っています。江戸時代の黒船騒ぎの時は、早馬が往復した重要な道路でした。

三艘 (サヅウ)

六浦には、鎌倉時代に、鎌倉の東の玄関口としての湊がありました。三艘は、唐船が三艘寄港したことに由来する旧字名（現六浦南 1 丁目）です。なお、唐船が三回来航したことによるという説もあります。

三艘の庚申塚

庚申塚は、当時の「川」と「三艘」との境にありました。

現在庚申塔は一箇所にまとめられていますが、一基には寛文 10 年（1670）建立、別の一基には享保 9 辰年（1724）と刻まれています。

「川」は旧字名で六浦川と侍従川とに はさまれた地域をいいます。



庚申塚

三艘町内会館・文殊菩薩像

追浜の良心寺から遷された文殊菩薩像は、戦国時代小田原北条氏の家臣、朝倉能登守景高の持仏でした。かつては文殊堂に祀られていましたが、京急逗子線開通のため文殊堂はなくなり、文殊菩薩像は、三艘町内会館に安置されました。毎月 24 日に文殊講が行われています。

象塚跡

三艘町内会館から京急線に沿って六浦駅に向かって進むと左手に浅間神社、右手に象ヶ谷と呼ばれている場所があります。昔、船で運ばれてきた象が船上で死んでしまい、湊からほど近いこの地に埋められ、その場所が「象塚」と呼ばれていました。また近くに「象ヶ谷橋」の名も残っています。

厄神様

1550 年頃、安房の里見軍がこの地に来襲しましたが、小田原北条氏に敗れて逃げ遅れた武将がこの辺で力尽きてしまいました。近隣の人達が手厚く埋葬し、それ以来この村は疫病から免れるようになったので、厄神様として信仰されるようになりました。

傍示堂 (ボウジドウ)

武蔵国と相模国との境に天神山脈が連なり、浦賀道はそこを横切るようになっていました。

道筋には地藏像などが祀られていました。現在は国道 16 号線沿いに他の石塔群と共に集められ祀られています。傍示（傍示）とは、境を示すことで、木を植えたり、石などを置いたりしました。

雷神社

祭神は火雷神（ホノカミノカミ）。

社伝によれば、10 世紀頃から天神崎にあった社を朝倉能登守が雷神社（カミナリノヤ）と改め、16 世紀末にこの地に遷したと伝えられています。地元では「かみなり」神社と呼ばれています。

なお、境内には横須賀海軍航空隊にあった追浜神社（貝山中腹）が先に合祀されていることもあり、富岡にあった横浜海軍航空隊の浜空神社も平成 20 年ここに遷されました。

築島

昔ここは離れ小島でした。永禄 2 年（1559）ビヤクシンに落雷し木は黒こげになりました。その時居合わせた 12 人の女性達が無傷で助かったのは奇跡として、雷神社が一時ここに祀られていました。その木は今も腐らずに残っています。

浦郷陣屋跡

追浜駅から国道 16 号を横須賀方面に向かって約 200m のところにある踏切を渡ると、江戸時代末期まで使用されていた陣屋がありました。陣屋の門があった所は、今も「大門」と呼ばれています。ここは小田原北条氏の時代、領主の朝倉氏が住んでいたところです。

良心寺

久遠山。大悲院。浄土宗。本尊は阿弥陀如来。もとは曹洞宗の寺でしたが、朝倉能登守景高が夫人の菩提を弔うために浄土宗に改めて再興しました。夫人の戒名「良心大姉」から寺名がつけられました。境内の山裾に宝篋印塔形の墓があります。建立年代は江戸時代の初めと推定され、横須賀市史跡に指定されています。

良心寺
朝倉能登守
室墓

